

# 大江文庫からごきげんよう



(初かつお売り) 歌川国直筆 大江文庫所蔵

## 東京家政学院大学図書館報 第70号 目次



「大江文庫英国コレクション」より

巻頭言 図書館を拠点に (鷹野 景子)	1
和食展を観て (河田 敦子)	2
表紙錦絵解説 (江原 絢子)	
「特別展和食」を見学して (伊藤 有紀)	3
本学教員寄贈著書紹介	
大学図書館情報検索における生成AIに関する未来展望について (久保 準一)	4
ちょっと一息つきませんか?	
ライブラリー・アシスタントになって (中庭 千里/山根 夕芽/高柳 芽生)	5
書店ツアーに参加して (松田 菜緒/須崎裕未)	6
書店ツアー選書おすすめ図書 (加藤利江/須崎裕未)	

## 巻頭言 図書館を拠点に

学長 鷹野 景子



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在学生の皆さんも、新年度を迎えて、新たな気持ちでいらっしやることでしょう。

図書館は、図書を中心とする知の集積の場です。

また、館内のラーニング・コモンズがアクティブ・ラーニングに最適な場所であることから、図書館は、学習の中心となる場でもあります。

そんな図書館の広報誌(図書館報)には素敵な名前がついています。10年前に、学生を対象に図書館報タイトルコンテストが実施され、「大江文庫からごきげんよう」が最優秀賞(学長賞)に輝きました。以来、このタイトルが使われています。<sup>1)</sup>

町田図書館1階のラーニング・コモンズも同じ頃にスタートしました。白を基調に濃いピンクをポイントとした、明るい雰囲気スペースです。この内装は、ローズコートとも共通しています。いずれも、学生にとって居心地の良い空間になっていると思います。以来10年間、ラーニング・コモンズには、4つの機能を持つスペースが用意され、活用されてきました。①グループワーク・スペース、②ラーニングサポート・スペース、③コモンギャラリー(学内

外の交流を支援)、④ディスカバリー・スペース(学術雑誌コーナー)の4つのエリアを設けているのが特徴です。1)

グループワーク・スペースでは、授業での活用のほか、オープンキャンパスや協定締結校との協議会等、学内外のイベントでのプレゼンも行われます。

ディスカバリー・スペースの学術雑誌コーナーには、家政学分野の雑誌はもちろん、実用的・応用的なものから、基礎科学(化学や生物)分野のものまで置かれていて、活用度の高いスペースとなっています。

図書館2階の閲覧コーナーも、心地良いスペースです。白い机と大きな窓の組み合わせで明るい雰囲気ですし、窓の外に広がる自然(緑)が目を楽しませてくれ、同時に開放感を感じさせてくれます。ぜひ、あなたのお気に入りの席を見つけてください。

そして最後に、学生のみなさんに図書館での活動をお勧めします。ライブラリー・アシスタントとしての活動は、専門分野を問わずに可能です。本や読書が好きな人だけでなく、読書にそれほど魅力を感じていないという人にも、それぞれの楽しみ方があります。書店ツアーによる選書や館内での本の展示企画など、図書館に関する活動の中から、新しい自分の発見があるかもしれません。また、楽しみながら活動する中で、同級生や先輩後輩との繋がりもできるなど、たくさんのメリットがあります。

図書館を拠点に、あなたの学生生活を存分に楽しんでください。

1) 東京家政学院大学図書館報第61号(2015)

## 和食展を観て

### 附属図書館長 河田 敦子

銀杏が黄色く色付く頃、和食展へ夫を誘って行ってまいりました。だし(昆布、鰹、煮干)、キノコ、魚、貝、草等々の材料が、人間の「食べる」という行為とどのように結びついて変化してきたのかがよくわかる展示会でした。本学大江文庫が提供した資料も数々展示されており、誇らしい気持ちになりました。本学から提供された展示資料は、『日用儉約料理仕方角力番附』、『素人庖丁』、『古今名物御前菓子秘伝抄』、『料理伊呂波庖丁』、『万宝料理秘密箱』等々です。参観者が列をなしており、大盛況だったようです。

私が特に興味を持ったのは、織田信長が安土城で徳川家康をもてなした「織田信長の饗応膳」を再現したものです。「織田信長の饗応膳」は、この膳の準備をした明智光秀の行為の何かが信長に咎められ、饗応に集まった



(「織田信長の饗応膳」の一部 河田撮影)

人々の前で光秀が厳しい仕置きを受け、その信長の仕打ちに対する憎悪が光秀の信長を討つきっかけとなったと言われています。

食事を摂るという行為には、人間関係の物語も織り込まれており、歴史を大きく変えさせる、その食のあり方を彷彿とさせる食膳です。往時のメニューが何らかの資料に基づき再現され目の前に展示されているということにも深い感慨を覚えました。

### 表紙錦絵解説:(初かつお売り) 歌川国直筆 大江文庫所蔵



江戸っ子のなかでは、初がつおなどの「初物」を食べると長生きできるという風習が流行し、高値で売買されました。この絵図は、天秤棒で家々を売り歩く振り売りと呼ばれる行商人が初がつおをさばいている様子で、それを買う人や見ている人々を描いています。当時かつおの刺身には大根おろしかからしを薬味にして醤油で食べる方法が一般的でした。子どもが徳利と大根を持っているのは、当時の初がつおの食べ方を象徴しているともいえるでしょう。つばめから季節もわかります。

江原絢子(本学名誉教授)

# 「特別展 和食」を見学して

伊藤 有紀

(現代生活学部現代家政学科助教)

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されて10年が経過し、世界中で日本の食に対する注目が高まる中、国立科学博物館で「特別展 和食」が開催されました。筆者は1年次「基礎ゼミ」の社会見学の一環として学生を引率して見学をしました。展示は6章から構成され、和食の特徴である「自然の尊重と多様性」を柱に、日本列島の多様な環境やそこに住む動植物、それらを食材として利用してきた先人の知恵や食事文化を理解できる流れになっていました。1章は、海外との比較を通しての「和食ってなに？」の問いかけ、2章はきのこや魚介類などの食材、3章は縄文時代から現代の食事、4章は和食の技術や道具類、5章は和食の定義に対する来場者への調査結果のリアルタイムな集計、6章は郷土料理や伝統野菜などの和食を取り巻く今後、という内容でした。

全体として動画、実物、模型が豊富に用いられ、本学からも江戸時代の料理書『素人庖丁』『豆腐百珍』や、「鳥団子汁」「卵なます」などの料理の標本が展示されました。出展したからというわけではありませんが、本学の料理書や標本を含む、3章の料理や献立の再現は特に見ごたえがあると感じ、学生の様子からも関心が高



『豆腐百珍』天明二年(1782)

いことが伺えました。この他、多彩な地ダイコンや クロマグロなど食材の実物大模型や、江戸時代のすしや天ぷらの屋台などもあり、立体的な特徴や空間の雰囲気がよく伝わりました。パンフレットには模型などの撮影ポイントが示されSNSへの投稿が意識されている点も最近の催しの特徴かと思えます。

学生の感想には、展示の仕方に関する記述に加え、「和食はもともと日本にあった固定的なものだと思っていたが、異文化との交流や技術革新なども経て時代ごとに変化してきたことがわかった。」という気づきが多く書かれていました。今後どのように変化させていくかは自分たちの世代次第であるとの思いを今後の大学での学びを通して培っていってくれればと願っています。

## 本学教員寄贈著書紹介

令和5年度に本学教員より寄贈された著作等を紹介します。

ご寄贈いただきました皆さま、ありがとうございました。今後とも著作物出版の折にご寄贈いただければ幸いです。

### 原口秀昭

ゼロからはじめる建築の「歴史」入門 / 原口秀昭著  
彰国社, 2020

圖解建築入門：一次精通東西方建築的基本知識、  
結構原理、工法應用和經典風格 / 原口秀昭著；  
林書嫻譯  
台北：臉譜出版；家庭傳媒城邦分公司（發行），  
2022

### 金澤良枝

糖尿病レシピ12週間：おいしいかんたん作りおき  
中尾俊之医学監修；金澤良枝栄養監修  
ナツメ社, 2023

糖尿病の人の簡単作りおきレシピ：ヘモグロビンA1cを  
下げる優等生レシピを満載！ / 牛尾理恵著  
新装・改訂版 主婦の友社, 2024

### 信田理奈

新たな時代のジェンダー・イシュー：性差と育児、  
科学と女性を問う / 信田理奈, 村上涼編著  
三恵社, 2020

### 江原絢子

「料理書」に学ぶ、その歴史と魅力 / 江原絢子  
監修；味の素食の文化センター企画；アイビー  
アイ制作 (DVD)  
味の素食の文化センター 2022

### 上村協子

現代生活学研究 / 上村協子編  
第1巻～3巻  
現代生活学研究所 2023

(順不同 敬称略)

# 大学図書館情報検索における 生成AIに関する未来展望について

## 久保 準一 (情報化推進室主幹)

現代の大学図書館は、膨大な情報にアクセスするための知の中心的な存在であります。

また一方で、利用者側から情報検索の効率向上が求められています。現況、学生及び教員の全てが効率的な複雑多岐な各種学術データベースの最新検索技術を修得しているとは断言できません。こうした課題に対して画期的な解決ツールとして最近、世間に登場したものが生成AIだと推考されます。生成AIの利用は、未来の大学図書館において新たな可能性を切り開く画期的必須ツールとなることが予想されます。

以下において、生成AIが提供する未来展望に焦点を当て項目別にその概要を簡潔に論じます。

### 1. 自動要約と概要生成の進化

生成AIは情報の過剰な量から重要なポイントを抽出し、自動的に要約や概要を生成することが期待できます。これにより、利用者は膨大な文献を検索するための作業時間から解放され情報を迅速に理解し、専門家以外の一般人でも必要な情報を迅速かつ効果的に取得できます。

### 2. 個別化された推薦システムの充実

生成AIが利用者の学習履歴や好みに基づいて推薦を行うことで、個別化された情報へのアクセスが向上します。これにより、利用者はより関心のある情報に簡単にアクセスでき、研究や学習の効率が飛躍的に向上することが可能となります。

### 3. 多言語対応と国際的なアクセス向上

生成AIの多言語処理の進歩により、異なる言語の文献にアクセスしやすくなります。これにより、外国語を修得するための時間や費用のバリアがかなりの部分で取り除かれ国際的な研究コミュニティがより効果的に情報を共有し、連携することが期待できます。

### 4. 対話型検索と質問応答の進展

生成AIは自然言語処理の向上により、対話型検索や質問応答においても今後更なる高い精度を発揮するでしょう。これにより、利用者はより直感的かつ効率的に情報を得ることができます。

しかし、現況においては、質問における生成AIの回答内容が必ずしも正当内容である確率が100%ではないため、最終的に質問者自身で回答内容を精査する必要に迫られています。また、その事実の裏には質問のキーワードが回答を導く際の的を得た内容となっていないがために、生成AIの回答も質問者の意図とは異なる内容となってしまう事実も否定できません。

今後においては如何にして限りなく100%に近い正当内容を導き出すシステムに改善していくことが開発者の課題及び命題であり、質問者のプロンプトエンジニアリングの技術向上も並行して必要と言えます。

### 5. 学際的な研究の促進

生成AIの進化は、異なる学問領域や分野の融合を促進します。AIは異なる分野の文献や知識を網羅的に検索し、統合的に理解することで、学際的な研究やアプローチが進展することが期待できます。

以上のことから、生成AIの進展は未来の大学図書館において情報検索の手段を革新し、利用者にとってより効果的かつパーソナライズされた経験を提供することとなるでしょう。

ただし、これらの技術の導入には倫理的な側面やプライバシーの問題に留意しながら、継続的な検討と改善が求められます。生成AIを有益なツールとして利用するためには、技術と倫理が共に発展していくことが不可欠となります。

## ちょっと一息つきませんか？

町田図書館の2階C書庫一番奥に、「ゆるゆるスペース」を設置しました。小窓から見える四季折々の風景を見ながら息抜きをしたり、少人数でのゼミやディスカッションにもご利用いただけます。予約もできますが、空いているときはご自由にお使いください。



# ライブラリー・アシスタント

今年度より、ライブラリー・アシスタントの募集を開始しました。初代ライブラリー・アシスタントの方に、感想を書いていただきました。

学生生活の中で図書館には課題作成のための資料の本を借りたり、友人と空いた時間にグループスタディールームを利用したりとかなりお世話になっているが、ある日ライブラリー・アシスタントの募集を見て、ふと自分が普段利用している図書館の業務はどのようなものがあるのだろうかと気になった。高校生の時図書館委員をやったときには本の貸出返却だけでなくポップ作りや配架も図書委員の業務だったため、果たして大学の図書館はどのような図書館業務なのだろうか、やってみたいなど思ったのでライブラリー・アシスタントに応募し活動を始めた。実際に業務を行ってみて、配架や雑誌の入れ替えは蔵書や種類が多い分少し大変だったが普段自分が手に取らない本や雑誌の位置を知り、中には配架途中で面白そうな本を発見することができ、ライブラリー・アシスタント全員で考えた展示企画は世界の食文化について多くの本を選書し、ポップを考えて作り、SNSで発信するという普段の授業ではできない「企画」を自分たち主体で行うという貴重な経験をさせていただいた。ライブラリー・アシスタントになってから行った業務はどれもこれも、普通に学生生活を送っていればできない経験ばかりだった。ライブラリー・アシスタントは引退しても、ここで得た経験や学んだことを活かせるような学生生活を送っていききたい。(人間栄養学科 中庭 千里)



ライブラリー・アシスタントに就任して、今まで利用者としてしか知らなかった図書館について図書館業務を通じて知ることができた。配架や新着図書など様々な業務を体験させてもらったが、一番印象に残っているのは、企画展示である。今回私たちは「世界食べ歩き あなたの知らない世界の味」として世界の料理の本を集めた展示を行った。企画の提案から展示する本の選定、本の紹介文、本の配置に至るまで、図書館スタッフの力をお借りしながら自分達で完成させた展示は達成感があった。そして普段何気なく見ていた展示は図書館スタッフがどんな展示にしようか、どんな展示だったら皆が興味を持ってくれるかと考えられていることが分かった。毎週届く新着図書、本の貸出、返却作業、配架、図書館の設備確認など、図書館の業務の体験を通じて、私たちが普段気持ちよく図書館を使用できているのは、このような作業を行ってくださっている図書館スタッフのお陰なのだと感じた。

半年間という短い期間ではあったが、ライブラリー・アシスタントとして図書館に携わることができ、とても楽しかった。図書館にはこれからも多くの場面でお世話になると思う。もっと図書館を活用して有意義な学生生活にしていきたい。(人間栄養学科 山根 夕芽)

中々体験することのできない様々な図書館業務を体験させていただきました。その中でも、ライブラリー・アシスタントとして主に活動した展示図書が一番印象に残っています。テーマに合わせて本の選書をし、選書コメントを考えました。選書コメントは本についての紹介を交えながら、手に取っていただけるような文章を考えるのに難しさを感じました。図書館スタッフの方の素敵な選書コメントを拝見し、このような書き方もあるのだなと非常に勉強になりました。また図書館を利用する方の目に少しでも留まるように試行錯誤して展示も行いました。展示し終わった後のズラツと並んだ本を見ると大きな達成感が感じられました。普段何気なく見ていた展示図書でしたが、実際に業務をしてみるとこんなに大変なのだと感じました。

学業との兼ね合いもあったため、あまり活動ができませんでしたが、短い中でも非常に多くのことを学ぶことができました。この貴重な体験を思い出しながら、今後も図書館を利用し勉学に励んでいきたいです。(人間栄養学科 高柳 芽生)



# 書店ツアーに行ってきました

この度書店ツアーに参加いたしました。今まで読んだ本の中で自分自身が心に刺さったもの、これから読んで知識を得たいものなど、自分の人生を作っていくために選書する時間はとても有意義に感じました。私は高校生まで好んで読書をするタイプではありませんでしたが、大学1年生の頃に会った葉祥明さんのエッセイ本に惹かれ、言葉や文章に愛着が湧きました。そこから自分の悩みや葛藤を救ってくれるような本が好きになったので、今回は皆様にも心が救われたり、ふとした悩みを解決してくれるような本を読んでもらいたい気持ちで厳選しました。選書した本が図書館で実際に飾られ、貸し出しされている光景を見た時「誰かが興味を持ってきている」と感じ、嬉しくてたまりませんでした。本が好きな方は是非参加していただきたいイベントだと思います。

(現代家政学科 松田 菜緒)

書店ツアーは2年生のときに行いましたが、その際はオンラインで行われたため実際に書店へ赴き選書をするのを行うのは初めてでした。

八月に行われたツアーで実際に見て選書を行うのはとても難しく、学科で利用できるような本などを探す際は本の分類などを見て参考にして選びました。そのほかにも小説もいくつか選書しました。小説に関しては今まで読んできたなかで面白く、多くの人に知ってもらいたい物語を中心に選書しました。

普段本を選ぶときは自分が好きなジャンルなどに偏ってしまうのですが、今回は選ぶときに多くの人に伝えられたので手に取りやすい内容にしました。

今まで選書する機会がなかったので、書店ツアーでは貴重な体験ができました。

(生活デザイン学科 須崎裕未)



拝啓、十年後の君へ。 / 天沢夏月[著]  
KADOKAWA, 2016.6  
請求記号 /ア 61

この小説は、小学校一年生のときに十年後の自分へ宛てた手紙を書き、それをタイムカプセルとして埋めたものを開封して読むお話です。

タイムカプセルの中にあるがどのように主人公たちへ届けられますが、どのような方法なのかも書かれているので「こういう連絡方法あったな」となるかもしれません。

六人の主人公はそれぞれ悩みを持ちながら、手紙をきっかけに何か変わっていく過程にも注目です。



プラネタリーヘルス: 私たちと地球の未来のために / edited by Samuel Myers, Howard Frumkin; 長崎大学監訳  
丸善出版, 2022.3  
請求記号 519/マ 3

翻訳本なので、厚く重いですが、でも、手にとって写真だけでも見てほしいです。訳を担当した長崎大学はプラネタリーヘルス学環というコースを持ち、広い視野で地球の未来を考えているようです。この本は未来を想像し今を考えるきっかけになります。



ぼくのたび / みやこしあきこ作  
ブロンズ新社, 2018.11  
請求記号 726.5/ミ  
おだやかな気持ちにさせてくれる本です。擬人化された主人公の心の動きがいいです。みやこし氏の静かで、温かい絵が素敵です。



料理を彩るパーツアイデア図鑑  
橋本宏一[ほか著]; 柴田書店編  
柴田書店, 2022.8  
請求記号 596/シ 41

レストランで出てきた一皿で、これってどうやって作ったのかな? と考えたことはありませんか。この本を見れば その謎が解けます。



マンガでわかる日本の食の危機: 迫る飢餓……「質」も「量」も崖っぷちの現実から大切な命を守るために / 鈴木宣弘原作監修  
方丈社, 2023.7  
請求記号 611.3/マ 75

劇画なのでさっと読めます。食育をテーマに勉学に励んでいるみなさん、まずはこの1冊いかがですか。

東京家政学院大学 図書館報 第70号  
大江文庫からごきげんよう  
ISSN 2189-2881

令和6年4月1日 発行

発行者 東京家政学院大学附属図書館  
〒194-0292 東京都町田市相原町2600  
電話 042-782-9815